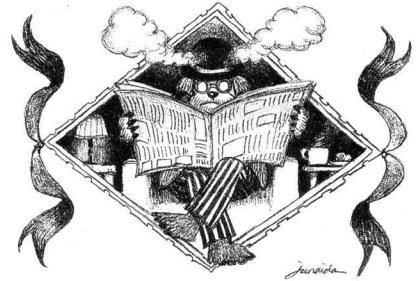


朝日歌壇俳壇



＜日曜日のブローチ 12＞ junaida

俳句時評「旧派」の実態とは

岸本 尚毅

明治以降の俳句史の出発点は、正岡子規による俳句の近代化だといわれる。旧弊な「月並俳句」を刷新したのが、「新派」たる子規の改革だという説明は単純明快で便利である。

ところが、いわゆる「旧派」の実態は案外知られていない。それを調べあげたのが秋尾敏の近刊「子規に至る 十九世紀俳句史再考」（新曜社）である。

本書によると、幕末から明治にかけては俳人たちが国学の影響を受けた。彼らは明治以降の俳句史の出発点は、正岡子規による俳句の近代化だといわれる。旧弊な「月並俳句」を刷新したのが、「新派」たる子規の改革だという説明は単純明快で便利である。

教林盟社の幹部、橋田春湖の句。廃仏毀釈による寺院の荒廃という「重いテーマ」を「凡庸な光景で覆い隠した」「カムフラージュの文学」だと本書はいう。

「釈迦のみと思ふ愚や人の秋」は教林盟社に対抗して設立された明倫講社の社長、三森幹雄の句。「玉華金液」と前書があり、飲酒戒に従う人を「愚」と嘆いた。これらの句は、幕末明治の変革期に出現した俳句の「一様相」といえる。

明治期を通じて勢力を持っていた「旧派」だが、その後はどうなったのだろうか。今後の俳句史研究の課題として、興味深い論点である。

山田佳乃著「山田弘子の百句」 弘子はホトトギスの俳人。著者は娘で「円虹」主宰。副題は「伝統に新風を」。「みな虚子のふところ」にあり花の雲（ふらんす堂・1650円）

岸本葉子著「ゼロから俳句 いきなり句会」 予備知識なしでも俳句を作れる方法、季語力の鍛え方、句会への参加の仕方を丁寧に解説した入門書。（笠間書院・2090円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかは1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

◆大串 章選

紫陽花が見らの笑顔に見えてくる
（厚木市）北村 純一

兼業と半農たちの田植かな
（福岡市）釋 蛸規

桜桃忌人にだけある無念の死
（川崎市）神村 謙二

白南風やシャンソン歌手の黒づくめ
（大村市）小谷 一夫

我が町へ月を呼び込む祭笛
（横浜市）有村 次夫

廃屋の車庫から不意につばくらめ
（東京都品川区）森山 明

田を植えて水面に託す心あり
（横浜市）倉田 幹夫

水無月の傘寿を告げる墓前かな
（河内長野市）岩本 正捷

螢来て明るき手相となりけり
（松山市）富岡 信明

鮎釣の後ろ姿の何思ふ
（相模原市）はやし 央

【評】第1句。初めは白かった紫陽花の花が今は赤紫。丸で「見らの笑顔」のよう。第2句。専業農家が減少し兼業農家や半農が増えて来た。何故だろう。第3句。桜桃忌は玉川上水で入水自殺した太宰治の忌日。人間以外の動物は入水などしない。

◆高山れおな選

青鯨の遊ぶが如く鯉を刺す
（長崎市）下道 信雄

はじめてのねぢりはちまきまつりのこ
（秋田市）土谷 信一

朝まだきキャベツに月の雫あり
（三浦市）秦 孝浩

☆守宮って宇宙のスパイかも知れぬ
（三重県大台町）瀬川 令子

立葵夏の喇叭を掲げたり
（栃木県高根沢町）大塚 好雄

死ぬ死ぬが口癖の爺腹酒
（川崎市）益子さとし

何食はぬ顔とはこんな墓文む
（春日部市）斎藤 利彦

うなぎ捕る河童の影が牛久沼
（東京都杉並区）菊池 和正

谷戸の風通る茅の輪を潜りけり
（横浜市）吉村 幾子

俳句脳に髄の胞子の棲みつけり
（横浜市）吉崎 哲男

【評】下道さん。「遊ぶが如く」に見えても生きるための戦いそのもの。そのギャップに肅然。土谷さん。ハ、ジ、ノ、リ、マの五音が反復する声調の妙。仮名表記も効果的。秦さん。朝露が有明の光を含んで。美しい。上五はもうひと工夫か。

◆小林 貴子選

気儘とは風の力や築ボブラ
（札幌市）佐藤 洋樹

垂直をねむね進む蝸牛
（茅ヶ崎市）原田 博之

三匹が寄れば社会や黒目高
（慶屋川市）今西 富幸

アイドルは踊りながらに水を打つ
（福岡市）松重 誠一

羅や影まで薄くなりさつな
（いわき市）岡田 木花

袋角ややををしさに欠けたるか
（下関市）内田 恒生

七年もなつかぬままに金魚死す
（横浜市）沼宮内 薫

☆守宮って宇宙のスパイかも知れぬ
（三重県大台町）瀬川 令子

江の電に日焼の人の押し合へり
（横浜市）島 光

闘病とは言はず共存冷奴
（仙台市）柿坂 伸子

【評】一句目、ボブラは花の後に白い穂わたを大量に飛ばす。気ままな雪のように。二句目、かたつむりの動きは眠そうだが、人間には真似できない。三句目、動物も社会をすこやかに運営してほしい。四句目、打水の句にして何という新しさ。

◆長谷川 權選

ガザ発の銀河鉄道満席に
（筑紫野市）二宮 正博

五月雲象のはな子が遊ぶ空
（横浜市）岩瀬 幸子

古古古米には負けられぬ麦の秋
（東京都渋谷区）千葉 俊雄

夏の闇人間の歌大合唱
（酒田市）野澤 勝

絆いてなほ蠢きぬ無名墓
（京田辺市）大島 智雄

拾はれてより愛さるる桜貝
（境港市）大谷 和三

恋歌と知れば愛しき牛蛙
（長崎市）下道 信雄

無花果は男女初めの形らし
（安曇野市）太田 正子

短夜を寝過ぎすこともなき斷
（伊丹市）保理江順子

新聞をめくるだけでも風薫る
（所沢市）岡部 泉

【評】一席。賢治の童話は水死したカムパネルラを送る旅。今夜は……。二席。六十九歳で逝った「はな子」。五月二十六日が命日。三席。最近の妻はうまい。さてこの一戦は？ 十句目。新聞を読む人が読まない人か。現代人の分かれ目。